

議 事 日 程 (第 2 号)

平成29年12月 4 日 (月) 午前10時開議

日程第 1

一般質問

- |      |    |     |    |    |
|------|----|-----|----|----|
| 質問順序 | 1. | 17番 | 神谷 | 里枝 |
|      | 2. | 12番 | 豊田 | 一仁 |
|      | 3. | 5番  | 楠  | 浩幸 |
|      | 4. | 3番  | 土屋 | 和幸 |
|      | 5. | 2番  | 菅沼 | 淳  |

- 本日の会議に付した事件……………議事日程に掲げた事件に同じ
- 出席及び欠席議員……………出席表のとおり
- 説明のため出席した者……………出席表のとおり
- 職務のため議場に出席した事務局職員……………出席表のとおり

午前10時00分 開議

○議長（二橋益良） ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日は傍聴席へ報道機関が入っております。なお、撮影を許可した者には許可証を交付しておりますので御報告いたします。

ここで、12月1日から病院事業管理者に就任された杉浦良樹さんより、就任挨拶の申し出がありましたので、許可をいたします。病院事業管理者。

〔病院事業管理者 杉浦良樹登壇〕

○病院事業管理者（杉浦良樹） 皆様、おはようございます。本日は御挨拶をさせていただき御時間をいただき、ありがとうございます。

私は、12月1日より、湖西病院事業管理者を拝命いたしました杉浦良樹と申します。病院事業管理者を拝命したことは、大変光栄であると同時に、重責であることから、身の引き締まる思いであります。

私は、昭和56年4月に社会福祉法人聖隷福祉事業団の聖隷浜松病院に診療放射線技師として赴任して以来19年間、医療分野に携わりました。その後、経営事務にフィールドを移して、医療事業である病院や保健事業、介護事業に18年間携わってまいりました。これから、前病院事業管理者との引き継ぎを十分に行い、現時点での課題や問題について、しっかり把握をして、市及び市議会議員の皆様の御協力を賜り、病院職員と力を合わせて経営改善に尽力してまいりたいと思います。

誠心誠意努めてまいりたいと思いますので、何とぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） 続いて、副議長より挨拶を申し上げます。

〔副議長 加藤弘己登壇〕

○副議長（加藤弘己） 改めまして、皆様おはようございます。副議長の加藤弘己でございます。何かと御多用中にもかかわらず傍聴にお出かけくださいました皆様に、議会を代表し、御礼申し上げますとともに一言御挨拶を申し上げます。

今12月定例会では、29年度補正予算、条例制定、

日ヶ崎地区津波避難タワー設置工事の契約締結についてなど、17議案の審査を行います。

また本日より、13人が一般質問を行います。一般質問は公共施設、病院経営、教育、観光、防災、人口減少問題、福祉、環境等、さまざまな項目があります。一般質問は行政のチェックを行うとともに、湖西市全体の発展、全体の繁栄を通して全体の幸せを実現しようと、議員一人一人が真摯に取り組んでいるものであります。

しかしながら、人間というものは他人には見えても自分には見えないものです。日々悪戦苦闘しております。議員としましては、皆様が傍聴し、さまざまな角度からの御意見や叱咤激励がどれほど力になるのかはわかり知れません。また、昨今は自分自身のことよりも社会全体のことのほうが重要であり、今より将来のことを重視すべきであるとの常識がなくなったように思われます。

議員はみずからのためでなく、情緒や情念に訴えるのではなく、社会のため、公のために利益を図るべきという基準で行動しなければならないと思っております。住みよい湖西市をつくるため、謙虚さを欠くことなく、感情的にならず、バランスをとり、ますます奮起する所存でございますので、お時間の許される限り傍聴されますことをお願い申し上げます。

さて、御礼でございますが、10月24日から26日までの3日間、6会場での議会報告会を開催しました。多くの皆様にさまざまな貴重な御意見や提案をいただきました。ありがとうございました。

今回いただいた御意見や御提案は、今後、各所管委員会の調査研究に生かし、その調査結果については今後議会ホームページ等でお知らせしていきます。今後も参加者全員が来てよかった、また来たいと言ってもらえるような議会報告会を目指していきます。

また、湖西高校生、新居高校生との意見交換会を、ことしに続き1月19日、2月2日、2月9日に開催いたします。まちづくりに参加する意識を高めるため、湖西市の自慢できる点、残念な点、まちの将来像などについて意見交換会を開催いたします。新鮮

な目線で建設的な意見交換会ができると確信しております。

結びに、勇気と気力をもって物事に全力でぶつかることを約束しまして、挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。

○議長（二橋益良） 挨拶は終わりました。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでございます。

○議長（二橋益良） 日程第1 一般質問を行います。

今回、13名の議員の一般質問が通告されております。一般質問の日程を本日から3日間予定しておりますので、本日5名、5日に5名、6日に3名の一般質問を行うことといたします。予定された3日間の日程で全ての一般質問が終えられるよう質問者及び答弁者の御協力を強くお願い申し上げます。

本日の質問順序は、受付順により、1番、神谷里枝さん、2番、豊田一仁君、3番、楠 浩幸君、4番、土屋和幸君、5番、菅沼 淳君と決定いたしました。

初めに、17番 神谷里枝さんの発言を許します。それでは17番 神谷里枝さん。

〔17番 神谷里枝登壇〕

○17番（神谷里枝） 17番 神谷里枝。通告しましたように、1点目、公共施設マネジメント推進について、2点目、湖西病院経営改善に向けての2点について、一般質問をさせていただきます。

最初に、公共施設マネジメント推進についてであります。

質問しようとする背景や経緯ですが、公共施設マネジメント推進の必要性は周知のとおりであり、湖西市としては27年3月公共施設白書、28年3月公共施設等総合管理計画、29年3月公共施設再配置基本計画の策定、そして今年度中に個別計画策定の予定となっております。

パブリックコメントの実施や、今年度に入り公共施設再配置計画また教育施設地域拠点構想の説明と意見交換会も、中学校区を対象にそれぞれ1回ずつ開催されましたが、余り多くの意見・質問は出ませ

んでした。その場で配布された資料に基づき説明されても、理解しづらいことは当然であり、「意見、御質問を」と言われても、「何をどう発言してよいかわからない」、また議会報告会では「財政的にはどうか。全体像が見えない」という御意見もございました。

そこで、総論賛成各論反対とならず、市民の合意形成を得、着実に公共施設マネジメントを推進するために質問いたします。

1点目。公共施設再配置基本計画と教育施設地域拠点構想の説明と意見交換会を開催しての問題点をどのように捉えていますか。また、来年度以降の予定について、それぞれの担当部署にお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。答弁をお願いいたします。登壇してお願いします。

〔企画部長 松本裕行登壇〕

○企画部長（松本裕行） 初めに企画部のほうからお答えをさせていただきます。

平成29年7月から8月に開催しました説明会後のアンケート調査結果を見ますと、約45%の方が「公共施設を30年間で20%縮減することを知っていた」と答えております。徐々に市民へ周知されつつございますが、まだまだ市民への広報が必要であると考えております。

また、個別の施設についてはさまざまな意見もあることから、総論賛成各論反対から脱却できるよう、個別施設の再配置について、地域住民へ丁寧な説明や意見交換が必要であると感じております。

次年度以降は、3月に策定予定の公共施設再配置個別計画をもとに市民への説明や意見交換に努め、個別計画の広報に取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 続いて、教育長。答弁をお願いします。

○教育長（渡辺直宏） 教育施設拠点構想についての問題点等について、お答えをします。

10月に開催いたしました教育施設地域拠点構想の説明と意見交換会は、教育施設を地域拠点としてエリアごとに配置する構想について説明をさせていた

できました。

構想段階ということで今後の方向性について説明した結果、これらの教育施設をエリアごとに拠点化して考えていくことについては、参加者の理解が得られたものと判断しているところであります。

構想の課題といたしましては、エリアごとで教育施設の配置状況や地域の実情も異なっておりますので、エリアごとの課題を含め、この構想をもっと多くの市民に理解してもらい、意見交換することだと考えております。

次年度以降は、平成30年3月に策定予定の公共施設再配置個別計画に基づき、それぞれの地域で説明する機会と情報提供する場を設け、丁寧に構想の理解と意見交換に努めてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 御答弁ありがとうございます。両部署とも、答弁の内容は丁寧な説明を行っていきよということでした。今後、個別計画をつくって丁寧な説明をしていくということなんですけども、では、今、今年度いろいろ説明会を行った時点では、まだまだなかなか市民の理解が得られていないということをお聞きしているというふうに私は受けとめます。

そういった中でも、どうしても年度内には個別計画を策定しなければならないのでしょうか。急ぐ理由等についてお伺いしたいと思います。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） なぜ急ぐかということでございます。

急ぐというよりも、基本計画が既に29年3月に出しております。その中で29年度第1期はもう既にスタートしてございます。29、30、31、32が第1期になります。その後第2期、第3期、第4期。その中で今始まっている財源不足、これをいかに縮減していくかということをお話をスタートを切らなくてはならないということでございますので、急ぐというよりも、しなければならないという状況があるということで御説明にさせていただきます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 企画部のほうは事業がスタートしており、財源不足に向けてスタートを切らざるを得ないということでございましたけども、教育委員会のほうはいかがですか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 今の質問にお答えします。

先ほど企画部のほうからお話がありましたけども、我々が教育施設の拠点構想で説明させていただきましたことも園化、あるいは給食センターの設置に向けて、こんな事柄については説明をし、市民の方々から多くの賛同もいただいたところであります。そんなことはすぐに来年度にも進めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ただいま、こども園化とか給食センターは多くの方の賛同を得ているということでしたけども、説明会の中でいろいろ小・中学校の複合化とかいろいろ検討している中で、まずは先に給食センターをつくらないうような事業が進められないという当局の説明がございましたけども、そうするとまだまだ地域にはしっかりした説明はできていないけども、もう給食センターに向かっていかないといけないので、とりあえずはこういった個別計画をつくって進めていくことに教育委員会としても同調されていくという、そういう解釈でよろしいですか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 同調していくといいますか、給食センターについては安心・安全、子供たちの食に対する安心・安全、こんなところに重点を置いております。

今の現状での給食施設については、そんなに長く安心・安全を保っていくということはなかなかできない状況なので、これについてはエリア化ということもさしておいて、安心・安全ということを優先して、給食センターということをお考えのところでもあります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。とりあえず個別計画を策定して、それ以降、とにかく丁

丁寧な説明をしていくということでございますけれども、今までのような形ですと、一方的に、まあ一方的にという失礼ですけども、こういう方針で行きたいよということを市民に説明されて、意見を求めていくということなんですけれども、何か特段、合意形成を得るといふと語弊があるかもしれませんが、何とか市民に受け入れていただく、また財政難ということも理解していただくという大前提がある中で、この話し合いの進め方に何か特段考えている手法等ございますか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） まずは職員が公共施設の適正な運営、広域的な活用、安全性の確保と機能の複合化ほか、施設総量の縮減、これ基本方針4つでございますが、まず職員がそれを熟知し、掌握し、それぞれの業務の中に反映し、それを市民の皆様それぞれの所管施設から御説明をするというところが一番の根源というんですか、もとなる。そのマネジメントを公共施設のほうで総合的に基本計画の中で方針を示す。その中で丁寧な説明、丁寧な説明ということでございますが、どうしてもこちらのほうから一方的というお話がございますが、そこところは回数ですとか、根強い説明、その中でまた新たな広報活動も研究をしてみたいといけないと思っておりますが、接触をするということがまず大事だと、そこから始まるというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 学校教育施設に関してですけども、前回それぞれの5地区で説明会を開催させていただきました。ただ、子育て世代の参加というのは、夜というのはなかなか難しいという点がありました。

今後、とにかく教育施設については、子供たちにとってどうだろうかというようなことを第一に考えていきたいというふうに思いますと、やはり関係の保護者、そういった方々への説明というのは欠かせないもんだなというふうに思いますので、PTA総会だとか、あるいはPTAの会合だとか、そういったところでそれぞれの意見交換、意見、そんなもの

を交わしていきたいというふうに考えてます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。

では2点目に移らせていただきます。

教育施設地域拠点構想は、中学校区を核とした東部、中部、北部、西部、南部エリアの5地区で推進していく方向性とのことですが、それぞれのエリアごとの計画を伺います。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 先ほども少し申しましたけれども、それぞれのエリアごとの計画は、今後も地域の意見を踏まえながら策定をしていく予定でございます。実施については、財政状況も踏まえながら進めていくことになると考えております。

次年度以降の具体的な事業として、まず新居地区の新居幼稚園と岡崎地区の岡崎幼稚園のこども園化に向けた意見交換と計画を進め、学校施設については給食センターの設置に向けた検討に入りたいというふうに考えているところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。そういった方向性で行くということでしたけども、説明会において行政区と合致した校区で計画を進める、校区の関係ですけども、ということだったんですが、総合管理計画基本方針の中では、地区・校区の枠にとらわれることなく広域的な観点で効率化を図るとなっておりまして、ちょっと説明会でのことと食い違っているように思いますが、実際のところ校区についてはどのように考えていらっしゃいますか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 校区については、教育の基本計画の中に、地域の子供は地域で育てるというのが一番の中心にあります。そうすると、その校区というんですか、その自治体の区割りとその校区が変わるとなると、なかなかそういうつながりというのも今まで以上に深めるということがなかなか難しくなってくるかなというふうに思っておりますので、校区については今の自治会の組織、そんなところと

合致しながら進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 今の教育長の答弁をお聞きになって、企画部としてはどのように判断されますか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） そのとおりだと思っておりますが、施設においてと教育の部分とは、分けて考えるというところの中で、分けて考えるというところとちょっと語弊がございますが、先ほど申しました基本方針の中で広域的な活用という部分があります。これは公共施設の立場でいうと、行政区域を超えてという部分、それは市から、湖西市から他市、豊橋ですとか浜松ですとかという行政区域というものがありますが、ここの中でいう、今の御指摘でいうと、中学校区区域を超えての広域的な活用、そういったところから、区域を超えても地域のことは地域のことで育てるというのは非常に大事なことだと思っておりますし、そのとおりだと思っておりますが、施設においては、区域を超えて活用できる部分についてはそういった視点に立っても進めていこうというのが公共施設のマネジメントというふうに捉えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） わかりました。ありがとうございます。

では、3点目に移ります。

総合計画における今年度の実施計画の中で、中部エリアの鷺津小学校昇降口、鷺津中学校中校舎・南校舎の耐震補強事業が見直しとなりましたが、公共施設再配置基本計画との整合性を伺います。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 実施計画の策定に当たっては、関係各課が共同でヒアリングを行い、財政計画を見据え、緊急度の高さ、優先順位の高さなどを検討した中で、毎年計画の見直しを行っているところでございます。

鷺津小学校などの地震補強改修事業については、県の耐震基準は満たしていないものの、国の基準は満たしているため、歳入見込みや全体の事業内容な

ども考慮し、総合的に判断した上で先送りとしたものでございます。

公共施設再配置基本計画における鷺津小学校、中学校の大規模改修などの実施時期は、第2期の実施時期、平成33年から37年でございますが、耐震対策について二重の投資を防ぐという観点からも、整合性はとれているというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 総合計画の見直しの中で、28年度に載っていて、今年度見直しになっているわけですが、そうしますと優先順位とかいろいろあるので今年度は見送りましたよということなんですけども、そうしますと、整合性は取れているんですけども、では本当に子供たちの安心安全のために地震補強改修工事をするよという保証ということ大変申しわけない言い方ですけども、そういうものは実際どう感じ取ったらいんでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 繰り返しになりますが、基本計画の中では第2期のほうにそちらが表示をしておりますということがまず一点でございます。

先ほど申しました実施計画の中では、毎年、繰り返しになりますが、緊急度ですとか優先順位ですとか、そういったことでことし29、30、31年度の3年間についての実施事業の見直しをしました。そのときには、去年は載っておりましたが、ことしは載っていないので、今の御質問になっているというふうに思います。

これが時代ですとか社会ですとか、いろいろな自然災害等のいろいろな影響があると思いますが、そういったことを踏まえながら緊急度は、優先度は、年によっては変更がされる。なので、毎年見直しをされていく。担保が書いてないじゃないかということについては、こちらの基本計画、第2期のほうに明示がしてあるということで御理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 当局の苦しい立場もわかりませんが、なかなか耐震補強のほうが進めていただけな

い。第2期にやるといっても、本当に第2期にやっていただけるかどうか、ちょっと確信がない中で不安を覚える次第であります。

では、4点目に移らせていただきます。

北部エリアの教育施設地域拠点構想の説明会では、意見書まで用意されており、大変驚きました。北部エリアは、新所幼稚園、東小学校、知波田幼稚園、知波田小学校、湖西中学校と広域にわたっており、このエリアは絶対に丁寧な説明、意見交換会が必要と強く感じました。

中学校との複合化を検討している、地域から小学校がなくなるという情報を得た地域住民の気持ちも大変よくわかります。地域住民にとって暮らしやすいコミュニティづくりのために、説明する際に、複合化するに当たって通学・通園手段の確保や利用しなくなった施設利活用についての考え方を示すなど、地域が衰退しない方策も提案しながら理解・協力を求め、合意形成を図っていったらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 住民への説明には、湖西市の教育施設の現状や今後の方向性などを丁寧に説明し、合意形成を図ることが大切だと考えているところでもあります。

北部エリアの説明会では、多くの市民に参加していただき、関心も高く、多くの意見をいただきました。議員御指摘のとおり、教育委員会としましても、さらに丁寧な説明と意見交換会が必要だと思っております。

まず、平成30年3月に策定予定の公共施設再配置個別計画に基づき、課題を整理し、住民の皆様にも理解を深めていただき、湖西市を担う子供たちや地域の人たちにとっても、こういう学校や施設ができてよかったと思ってもらえるような、夢と希望のある施設の建設ということを視野に入れ、今後エリア化を進めていく時期になりましたら、さらに協議を重ねていきたいと考えているところでもあります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 課題を整理して、また丁寧な

説明を行っていくという答弁でございましたけども、それは十分に本当にやっていただかないことですが、では、使わなくなった施設等についての、学校を例えばこういうふうにするよ、でもここがあれいたらその場をどういうふうに活用するよというような方策は、現時点、当局は考えていないとか、そういうことを住民に説明する段階にはないという判断なんですか。いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 先ほども答弁したように、それも含めて今後、十分住民の方々との意見交換をしながら方向性を出していきたいというふうに思っているところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 今年度中に個別計画をつくりますので、そうしますと来年度に入ってそれぞれの個別施設計画について説明会を丁寧にやっていく。その中で利用しなくなった施設の使い方についても行政側サイドとしてこんな方法もありますよということをご提案してくださる、再度の確認になりますけれども、提案してくださるということによろしいですか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 全体的な公共施設のお話だと思います。教育施設について、今、地域のほうでは非常にデリケートな話題で、北部地区については聞いておりますし、自分も出ておまして、いろいろな皆様の、年配の方、これから子供が生まれて、また今幼稚園に通っている方、いろいろ意見がさまざままでございました。

その中で、例えばこの学校がなくなったときにこうしますよという話題は、現時点ではまだ時期尚早であると。ただ、一般のお話で、公共施設の全体的なお話でいきますと、縮減面積20%削減ということは、どこかが統合してどこかがなくなる。それによってその施設にかかる経費が浮く。それを長寿命化にかけていく。もしくはインフラの財源のほうに回していく。ということから考えますと、当然、統合された側のあとのほうは、施設を壊すなり、ほかの利用をする。もしくは市が経費をかけない方法で

地域の方が利用する。さまざまな方法を、打ち合わせですとかの中では事務局のほうでは提案の案件もございしますが、まずは皆様の意向がどうかというところが出てない中で、ここの施設はどうするこうするというのは、少し時期尚早であると思っておりますので、今後においてはそういう段階になったときには、そういう話題になっていくんだろうなというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 利用しなくなった施設利用に関しては、今後検討していくということですけども、先ほどの答弁の中ではもう29年度事業がスタートしており、財源確保に向けてどうしてもやっていかないといけないんだという答弁がございましたけども、そういった中でやはり市民の合意形成を得ていくには、代替案的なものを示してもらわないと、なかなか話がうまく展開していかないのではないかなと私は考えるんですけども、今、企画部長のほうからそういった代替案を示すということは時期尚早であるということでしたので、それを受け入れますけども、そうするとさらにまた月日が向こうへ行ってしまうような、なかなか基本計画で策定した1期、2期という事業が進捗していかないのではないかなというふうに感じ取れております。

まずそこはそうですけども、先ほども伺いましたけども、合意形成を受けていきますよという場でしたけども、そういった場をつくっていく中で教育委員会さんにおいてはPTA総会とかそういった場を活用していくよということでしたけども、例えば住民と行政とが話し合う場に、両方の意見を聞いて中立的な立場で会を運営するファシリテーターなどを交えて、今後こういった市民との合意形成を図っていく場を設けてはどうかと考えますけども、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 御意見ありがとうございます。研究してまいりたいと思っております。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ぜひそういった方向性も検討してみたいと思います。

では、5番目の質問に移ります。

公共建築物は再配置計画の観点に基づき、延床面積を20%削減すれば、年約7.5億円の管理運営費用の削減ができ、2.2億円がプラスに転じる試算をしております、公共建築物の再配置ばかりが取りざたされていますが、総合管理計画ではインフラ資産の40年間の更新費用総額が760.9億円、年19億円の推計事業費が必要であり、約7.3億円の不足が見込まれています。市民生活を支える都市基盤のインフラ資産についてはどのように検討されているのでしょうか。

公共施設マネジメントは公共建築物とインフラ資産、財政との連動なしには実現性がありません。私は、インフラ三原則などを定め、インフラ資産のマネジメント計画が必要と考えますが、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 平成27年度に策定しました湖西市公共施設等総合管理計画において、市が保有する公共建築物とインフラ資産を合わせた公共施設等を対象として、用途別に管理の基本方針を示しております。

御指摘のインフラ資産のマネジメント計画につきましては、平成23年度に策定されました公共下水道事業全体計画、平成24年度に策定されました湖西市橋梁長寿命化修繕計画、平成28年度に策定されました湖西市水道事業施設・管路更新計画及びアセットマネジメントに基づき計画的に管理してまいります。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） インフラ資産については、それぞれの部署で長寿命化に向けて計画がされているので、それに従って行っていくということですけども、一点ここで、では橋梁長寿命化計画ですけども、これは24年度に49橋の維持管理計画が策定されましたけども、その後、この計画は進められたのでしょうか。

○議長（二橋益良） 都市整備部長。

○都市整備部長（片山彰宏） 橋梁長寿命化修繕計画事業でございますけども、既設構造物のコンクリートのひび割れ、剥離、部材の腐食等を定期的に調



査・点検し、損傷が大きくならないうちに、事前に補修・修繕を行い、構造物の延命化を図る事業でございまして、耐震補強とか、かけかえなどのグレードアップ事業ではないというものでございます。

今までの橋梁長寿命化修繕計画事業の状況でございますが、調査・点検を行いまして、市内の346橋梁のうち、49橋を重要橋と指定いたしておりまして、そのうち修繕・補修をする必要が認められました13橋について、優先順位をつけ、平成29年度までに4橋の補修が終了しているという状況でございます。

また、これらの重要橋修繕とは別に、残りの297橋におきましても、重要橋と同様、定期的に点検を行っております。不良箇所を発見した橋につきましては、緊急性を判断した上で随時補修や改修を行っているというところでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） そうしますと、346、橋があるわけですが、49橋だけやって、あとはやる必要がないということですか。

○議長（二橋益良） 都市整備部長。

○都市整備部長（片山彰宏） 決してそのような発言したつもりはないです。346橋のうち49橋は、まず重要橋として指定しておりまして、残りの297橋につきましては当然定期点検を行っており、不良箇所を発見した場合は維持・補修をやっているという状況であると申したつもりでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 失礼しました。ありがとうございます。

予防保全を行っているので問題ないということでしたけども、そういった中で、きょうも静岡新聞に出ましたね。だんだん国のほうも厳しくなってくるし、予防保全、各市町の予防保全の財源確保も難しくなってくるので、しっかりした計画を立てて取り組んでいってはどうかというふうに新聞には掲載されていましたが、その点について、担当課としてはいかがですか。

○議長（二橋益良） 都市整備部長。

○都市整備部長（片山彰宏） 私ども湖西市としま

しては、計画的に予防保全、また定期点検を行っているという予定でございまして、確かに財源は限りがございますので、その中でできる範囲で努力しているつもりでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 財源が許される中で適時適正な管理を行っているということで、問題がないということでしたけども、いろんな状況を鑑みますと、本当に例えばインフラ三原則にはいろいろあるんですけども、現状の投資額は維持するよとか、ライフサイクルコストは縮減しますよ、効率的に新たなニーズに対応していきますよというような基本的な方向性を定めて、皆さんで情報共有してやっていったらどうかと思って質問させていただきましたけども、担当部署は計画的にしっかり進めているので問題がないという答弁でございました。財源確保もしっかり御努力いただきたいと思います。

次に移ります。

公共施設マネジメント基本方針3の運営の適正化に向け、維持管理を税金と利用者で負担している現状を踏まえ、利用料金や減免制度を見直すとの提示されていますが、この件についての進捗状況を伺います。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 施設の使用料や減免制度の見直しにつきましては、受益者負担を原則に、公の施設に関する使用料の設定基準を示し、関係部署にて見直しを行い、条例改正の準備が整ったところから、3月定例会の上程を予定しているところであります。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 条例改正を3月定例会に上程される予定であるということで、3月定例会に上程されるということは、もう来年度から早速こういったことに取り組まれていくという解釈でよろしいですか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 整ったところから、3月定例会に上程をしていくということで先ほど申しました。そのスタートはということでございますが、

料金改定におきましては、周知期間等々もございまして、その辺につきましては4月1日ではなくて、少し周知期間を設けまして施行日を考えていきたいというふうに捉えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） わかりました。そうすると、何件ぐらいの改正が出てくるかということとはちょっとわからないですけども、とりあえず当局としては作業を進めている。場合によっては料金とまた減免体制が見直されてくるところもありますよということで理解いたしました。

次の質問に移ります。

先日の説明会の資料の中で、再配置個別計画策定に向け、地域の課題・ニーズを解決するのに適した施設や地区を抽出し、個別計画の推進を象徴とするためのモデル事業の検討を行うとなっておりますが、進捗状況をお伺いします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） モデル事業につきましては、個別計画をより実効性の高いものとするため、市民の利便性向上や縮減効果が高く、今後再配置事業を推進する上で先導的な事業となるような複数の計画案を検討しております。

現在は、施設所管課と調整を行っているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 今、案を検討中とのことでしたが、そうしますと29年度中にはなかなかこういった案の提示というのは難しいのでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 個別計画については3月中に、29年度中に、3月までに仕上げるということで今進んでおまして、その中でモデル事業については、ただいま申しましたように、お示しができるような調整をしているということで御理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。先日、議員仲間数人で、行革審の傍聴もさせていただきました。そういった中で当局は既にモデル事業を検討

している。だからこれが今の部長の答弁に当たると思うんですけども、今現在、ではモデル事業、幾つぐらい検討されているのでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 今調整中でございまして、何個ということは今申せませんが、大きくは3つがベースで考えておりますが、この数につきましてはお示しをする段階で調整の結果になりますので、そのところで御理解をいただきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） なかなか公表しづらいということですけども、例えば白須賀幼稚園の建設が平成22年、第3期には更新しない。片や、済みません、岡崎中学校のほうは平成19年建設なんですけど、そのまま活用していくよ。北部地区の幼・小・中の複合化を図るといふふうになっていきますので、本来はもうある程度検討がされているけども、なかなかまだ公表の段階には至っていない。しかしそういったことが先日の北部の説明会では既に住民に伝わっていて、意見書まで用意されていたということにつながっていくのかなというふうに思ったんですけども、とにかく3月末の個別計画公表まで、なかなかしっかりした情報は提供できないということで理解いたしました。

では、例えば行革審でこういった個別計画、統廃合も含めてこういうふうな方向で行きますよということが承認されて、行革審で承認されたら教育委員会のほうへ諮られていくのでしょうか。その辺ちょっと伺いたいんですけども。個別計画について。個別計画をつくって、モデル事業をこういうふうに行っていきますよ、統廃合しますよとなってきますね、いろいろ。例えば、本当に北部のことばかりで申しわけないんで、北部3期なんですけど、例えば鷺津は2期に工事を行うようになってるんですけども、現状のまま活用するよ。中学も現状のまま活用するよ。でも規模を縮小しますよとかとなっているんですけども、そういった規模を縮小するときも、どんなふうにするのか全然見えないんですね。そういったことを例えば行革審なら行革審なり、庁内の公共

施設マネジメント推進委員会でしたか、市長を筆頭にしているところがあるんですけども、そこで最終的に承認を得られればそのように進んでいくということはわかるんですけども、その前段階で教育委員会にこういう方針でいきますよと諮るといことはどうなんですか。もうそれ以前にあるということですか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 教育委員会に諮るところにつきましては、ちょっと私のほうからはあれなんですけど、まず基本計画につきまして、個別計画について今御質問かと思ってるんですけど、基本計画の中で第1期・第2期・第3期・第4期、5年・5年・10年・10年、30年、この計画についての基本的な計画はお示しをさせていただいております。それをさらに第1期は4年間、第2期は5年間のその5年間、年ごとの個別な事業内容を決めていくというのが個別計画のほうのメニューになります。それを今やろうとしている。第3期については10年間のうちの5年、5年で分けまして、5年間の中で何をやっていくのか。それを5年ごとに決めていく。それが第4期も同じことでございますが、1期、2期については詳細に、3期、4期については5年サイクルで何をするかを決めていく。これは基本計画の中でもお示しをさせていただいておりますので、今の個別計画についてはそれをもう少し具現化していくということがございます。それを教育委員会に諮る云々という部分がちょっと質問の趣旨が、申しわけございません、よくわかりませんでした。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） では、この質問はこれで結構です。次の質問に移ります。

8番目。公共施設マネジメントの取り組みが、市民にさまざまな影響を及ぼすとともに、30年間という長期にわたる取り組みとなることから、例えば公共施設マネジメント条例なるものを制定し、計画の実現性を担保してはどうでしょうか。

再配置計画にて実施時期が第2期となっている事業が、市民会館、市役所庁舎、消防署本署、そして

教育施設など、箱物整備事業がめじろ押しです。水害など大災害が発生すれば、そちらを優先せざるを得ず、本計画は変更をやむなくされます。

次世代に負担を残さず、持続可能なまちづくりに本気で取り組む姿勢を市民にアピールするためにも、条例制定が必要と考えますが、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 本市におきましては、公共施設等総合管理計画の公共施設マネジメント基本方針の中で、公共建築物については4つの基本方針を定めてございます。

これに基づきまして公共施設再配置基本計画、公共施設再配置個別計画において、基本的なルールの明文化や個別施設の再配置について示し、総合計画の実施計画で着実に実行と検証をしていくことから、現在のところ公共施設マネジメント条例の制定は考えておりません。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 基本計画とか再配置の中で基本方針が定められていて、総合計画で着実に実行するという事になっているので、つくらないよという御答弁だったように受けとめますけども、そういった中で、では市と市民とか、関係者や事業者の責務などは明確になっていましたか。どうでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 事業者の責務と申します部分がちょっとお答えが。まず、ただいま申しましたように、条例をつくるつくらないにつきましては、もう既にこちらでただいま申しました、繰り返しになりますが、計画でお示しをし、実施計画において見直しをした結果については公表をし、またそのそれぞれの実施内容について行財政改革の中でいうそれぞれの数値検証をしている。そういったところで評価もいただいている部分がございますので、総じてそれぞれの過程過程においては、そういう意味から責務は果たしているのではないかというふうに理解しております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） では、本当に第2期に市民会館、消防署、先ほど申し上げた施設に関しては、本

当に実効性があるのでしょうか。財政的なバックボーンが何も見えない中で、20%削減に向けてこう行きます、こう行きますというお話は理解できますけれども、本当にではその実現性はどこにあるのかなと思うんですね。そういったときに市としての責任、市民もまた本当に協働という形の中で合意形成を図っていくということをやっけていかないと、この公共施設マネジメントというのはなかなか推進できないのではないかなと受けとめるんです。よく見えていない中、何か、申しわけないですけども、財政、財源確保のためにやらざるを得ないよということでございましたけども、どうも強引に進めるような気がしますけども、やらざるを得ないということなんでしょうか。どうでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 強引にという部分につきましては少し違和感がございますが、まず、湖西市の責務としますと、健全な財政運営をし、持続可能な湖西市。どなたでも住みたくなる、市民の皆様が住みたくなる、住み続けたくなる、そういった湖西市の実現。それに向けまして公共施設再配置計画の中で長期にわたって面積を縮減することによってその財源を生み出し、その財源をもってただいま申しましたいろいろな事業の展開を進めていく。結果、住みたくなる・住み続ける湖西市、誇れる湖西市、それを目指していく。そういったことから、事業の見直しの中で次年度実施事業については、今後冒頭お話ししました自然災害ですとか、社会情勢ですとか、湖西市独自のいろいろな御事情の中で、見直しということはいずれの段階では出てくると思いますので、その中で計画の見直しの中で期がずれるということはあるかと思えます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。公共施設マネジメント推進について、今いろいろ質問、答弁等を市長は伺っていたと思えますけども、個別計画を策定している自治体が、策定していても公表していないかもしれませんけども、そんなに多くはない。それから先ほど申し上げましたように、地域再編のきっかけとなる計画がない。また合意形成が

得られていないという、私の受けとめ方なんですから状況の中で、せめてインフラと第2期までの実施予定事業と、財政計画も含めた公共施設マネジメントを一体化させたものを市民に見える化を図っていただきたいと思えます。そういったことはすごく私は重要と考えておりますけども、市長のお考えを少し伺いたいと思えます。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の御質問であるとか答弁を聞いてまして、さまざまな捉え方はあろうかと思えますけれども、ことしの3月に基本計画、総論的な計画をまとめさせていただいて、今個別の計画を一生懸命、説明会等ですとか、個別にも御意見を伺いながら進めているところです。

その中で、やはり個別計画の中で、そこで一つ一つの施設といたしますか、公共施設の今後の計画、もちろん集約・複合化等々もありますけれども、そういったものが出てくるというふうを考えておりますので、それを今年度の3月末までに策定をさせていただく。もちろん、これからあと数カ月ありますので、いろんな御意見を伺ったりですとか、例えば私も去年やった市民懇談会もありますし、それ以外でもさまざまな行事の中で御意見を聞きながら策定をしていくことになるんだろうというふうを考えております。

さらには、まず先ほどの答弁にもあったとおり、計画上は個別計画をまず今年度末を目途にしっかりと計画を立てさせていただいて、その後、1期、2期、3期、4期という形で事業が実施に移されていくわけですので、その中で当然年度の見直しであるとか、財政事情によって、さまざまな個別の見直しはあろうかと思えますけれども、当然、直近でやるような1期、2期のところは、財源のところも含めたある程度の見通しを立てておかないといけないというふうに思っていますので、それは個別計画の中でもお示しできる限りやっていきたいと思えますし、施設そのものがやはり高度経済成長時代の右肩上がりの経済成長の中であれをつくろう、これをつくろうという時代ではないというのは、これは湖西市に

限らずですけれども、これは御理解をいただかないといけないと思いますので、さまざまなやはり財源も含めた、人口とか財源も含めた今後の湖西市の見通しの中で、どういった施設をどういったところにとり、というようなものは見直しを行っていかないとけないかなというふうに思ってますけれども、先ほどの教育委員会からの教育長からの答弁にもあったとおり、やはり子供たちのためでありますとか、その地域の活性化につながるような再配置は、住民の皆様とも意見交換を重ねながら、そして先ほど行政対市民、住民というお話もありましたけれども、それは行政対市民だけではなくて、住民同士の方々がやるような住民協議会も、ほかの自治体でも導入されておりますので、そういったファシリテーターとか、いわゆる調整役といえますか、そういった住民同士の協議会のような形も今研究を始めさせていただいてますので、そういった手法も含めて検討しながら、個別の計画をつくり上げて、やはり将来につながるような公共施設の再配置を行っていきたく思っております。済みません、長くなりましたが、以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 御答弁ありがとうございます。まず最低限、この個別計画の中にはある程度財政計画も盛り込んだ計画が公表されてくるというふうに受けとめましたので、それを期待しております。

○議長（二橋益良） 時間も過ぎましたので、とりあえずここで休憩をとりたいと思いますが、よろしいですか。

それでは休憩いたします。再開は11時15分いたします。

午前11時05分 休憩

午前11時15分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて会議を再開いたします。

ただいま神谷里枝さんの質問の途中ではございますが、大きな項目の2番から進めたいと思います。神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） では、最後の質問に移らせて

いただきます。

湖西病院の経営改善に向けてであります。

長期にわたり、一般会計から12億円の繰出金が繰り返され、財政負担となっていることは明白で、市民も、要る・要らないと意見が分かれています。

今後の財政状況を鑑みても、湖西病院の赤字解消を初めとする経営改革はもちろん、公立病院の地域医療における位置づけや果たす役割の明確化など、余りにも大きな難題が山積しています。こういった状況の中、まずは病院事業管理者を設置し、経営改善に取り組むことになりました。

そこで、新たに病院事業管理者となられた方のお考えをお伺いいたします。

1点目、湖西病院のどこに魅力を感じて応募されたかお伺いします。

○議長（二橋益良） それでは、病院事業管理者。

○病院事業管理者（杉浦良樹） お答えさせていただきます。

湖西病院の存在は、私湖西市民ですので、湖西市民として認知のほうはしておりました。その詳細についてはほとんど知りませんでした。今回、湖西病院が病院事業管理者を公募していることを知り、病院のウェブサイト等で現状を調べさせていただきました。

そこで、さまざまな課題がある中で、特に病院における財政状況が厳しいことを知り、自分の体験や経験を生かすことができないかと考え、応募させていただきました。湖西病院に対する魅力というより、湖西病院に対する自分の使命のようなものを感じております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん、どうですか。

○17番（神谷里枝） 魅力というよりは自分がこの公立病院の赤字を何とか改善しなければならないという、そういった使命を感じて公募されたということとわかりました。

では、2点目に移ります。

○議長（二橋益良） お伝えします。残り3分でございますので、よろしく申し上げます。それでは2点目のほう申し上げます。

○17番（神谷里枝） 経営診断が2月ごろ出てきま

すが、着任に当たって現在考えておられる病院経営方針についてお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（杉浦良樹） まず、湖西病院における詳細な実態を把握することだと思っております。その中から、やりたいこととできることの分析をします。速いスピードで変化している医療環境にあって、国が主導する病床機能報告制度を初めとする制度改革の波に乗るべく、方向性を導き出していきたいと考えております。

また、湖西病院が掲げている基本方針、患者中心の医療、健全経営、自治体病院の役割、病院機能の充実・強化、地域連携、職員の資質の向上、働きやすい職場環境を継承し、より具現化することによって、病院の理念にある、市民の信頼を得て、地域に貢献したいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 着任されたばかりですので、とりたててこれといった特色が余り感じ取れなかったなと思っております。

そういった中で、今どこでも取りざたされており、また湖西市のニーズとしても医療と介護ということが随分取り上げられておりますけれども、現時点、医療と介護、地域包括ケアについて、管理者はどのように捉えていらっしゃいますか。

○議長（二橋益良） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（杉浦良樹） 今、医療と介護のシームレスな連携というものが非常に叫ばれております。高齢化に伴って入院あるいは外来に来られる患者さんも、かなり高齢化してきているのが現状だと思います。

患者さんは介護と病院、いわゆる医療というのは行ったり来たりするということもあり得ますし、またいろんな介護施設との連携というのは、なくてはならない。患者中心にすると利用者中心になり、それが一人の人間を中心ということになると思いますので、そういった連携に対しても協力をしてやっていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） わかりました。

では、大変申しわけないんですけども、21日の全協の挨拶の中でいろいろ取り組んでいきたいよと、そういった中で最後のほうに、いろいろ排除せずに取り組んでいきたいという御発言があったと思うんですけども、これはどういった意味合いを含んでいるのでしょうか。

○議長（二橋益良） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（杉浦良樹） お答えいたします。

排除しないということは、いろんな考え方があると思われまますので、病院の立場だけではなくて、当然市民、利用される方々の話を聞くとか、全方位にわたってという言い方が正しいかどうかわかりませんが、全ていろんな意見をお聞きする。その中で結論のほうを出していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） わかりました。それこそ先ほどの質問にもちょっと関連してしまいますけれども、いろいろなところでいろいろな方の意見を聞いて、合意形成を得ながらこれから湖西病院の経営改善に取り組んでいくよ、そういった解釈をさせていただきます。

どうもありがとうございます。とにかく、そう並大抵にできる赤字解消ではないと思いますので、今まで聖隷等で培われた知識、また人脈ですか、そういったものを使って、本当に湖西市にとって必要な公立病院となるように力を発揮していただけることを期待申し上げまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、17番 神谷里枝さんの一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 次に12番 豊田一仁君の発言を許します。豊田一仁君。

[12番 豊田一仁登壇]

○12番（豊田一仁） 12番 豊田一仁です。先輩議員の政策論的な質問から、非常に足元の質問に移らせていただきます。

その前に、今先輩議員からも新任の病院管理者に対して期待をするというお話がございましたけども、

先ほどの言葉はこの議会の総意というふうにも受けとめていただいているのではないかなと思います。ここ十数年、非常に厳しい状況が続いている中、特に医業の世界というのは医師の権限と経営者の権限とのせめぎ合いの部分がございますし、それを取り巻く周辺環境も、外からは言えないものが多々あるというふうに認識はしております。ぜひ、よりよい湖西市のために御尽力いただいて、よい結果を残していただけますように、くどくなりますがお願い申し上げますので、私の質問は2問、通告させていただいてますので、そちらに移らせてもらいます。

本年の6月定例会におきまして、この市民が利用できる公共施設についてという同じ主題のもとに幾つかの施設が使用中止になっている中において、市が所有する施設の市民への貸し出し体制の見直しについてを質問させていただきました。

そのときの答弁では、夏には調整を行いますというような答弁を得ておりましたけれども、ではいつ報告されるのかというところが聞き漏らしておまして、夏の調整が済んでおるのであれば、そろそろ御報告いただいてもいいのかなと。先ほどの先輩議員の質問の中にも条例制定については3月にとというようなこともございましたけれども、そういったものも含めまして、改めて御説明いただければなと思います。

まず、見直し・調整を行うというふうに言われました。作業はいつ、どのような方法で行われていたのかということをお聞きしたいと思います。

○議長（二橋益良） 企画部長。登壇してお願いします。

〔企画部長 松本裕行登壇〕

○企画部長（松本裕行） 7月と9月の2回に、それぞれの公共施設を管理する所管課に参集をいただきまして、調整会議を開催いたしました。この調整会議において、利用者制限がある施設については、原則、利用制限を緩和する方向での検討をお願いし、条例改正を行うよう進めているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君、よろしいですか。

○12番（豊田一仁） 条例改正を行うよう進めてお

られるということですけども、7月、9月のその2回の調整会議の内容及びその条例を考慮しておられるところの、今の段階で詳細説明は難しいかもしれませんが、概略で結構でございますので御説明いただける範囲をお聞きしたいと思います。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 概要でございます。御参集をしてその調整をした内容につきましては、それぞれ施設をつくる時にいろいろな財源確保の関係から、いろいろな補助制度を活用して利用されている。その補助を利用した関係から、利用が制限をされる。例えば農林業資金であると、農業の改善すとか、対象者が特定をされるといったことでございます。そういった制限があるものについては、制限が緩和できますか、できませんかというところが、それぞれの所管部署から先の国だったり県だったりの調整をしながら進めると。そこを進めてくださいと。できるものについては進めましょうと。できないものについては、何ができなくて、どうすればいいんだというところの研究・検討をしたと。法改正はないんだけど、その団体利用者の目的だったり、それらを育成をするという方向の中で制限を設けているところについては、6月の御指摘のとおり、もっと広く利用ができないかどうかというところから検討をしていただくということを調整会議でいたしました。

その内容については、施設の利用とあわせて使用料の改定もあわせてという二本立てで、使用料のほうは財源確保という観点からでございますが、稼ぐ力を少しでございますが、使用利用の範囲を広げながら受益者負担の原則をもう一度見直しをする中で、その中で条例改正が必要であればしていくし、条例改正がなくて周知の中で広げていくものは周知をしていく方法ですとか、そういったものを研究して調整会議を進め、3月の条例改正にできるものから進めてまいりましょうということになっております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） その辺のもうちょっと細かいところ、例えば用途の拡大ができるものは幾つぐら

いあるよとか、ほとんど無理なんだよとかということもあろうかと思えますし、例えば料金改定もするというのではなくて、何件ぐらい3月に可能性があるのかというあたりの御提示というのは難しいでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 数については、今現在それぞれの関係部署で調整をして、できることから条例改正をしていこうということで進めておりますので、3月に何件出ますというところは少し控えをさせていただきたいと思えます。

施設におきましては、全部で32施設がございまして、その施設の捉え方も、例えば体育館は小学校・中学校全部、体育館は体育館として一つと捉えたり、なので、個数ということでお考えいただくとなかなか難しいんですが、32施設もしくはグループという中で検討をさせていただいて、その中で利用制限がない施設もございまして、それが半数ぐらい。残りの半数について、法的な制限があるものと法的な制限がないんだけど少し狭まっているものが緩和できないかというところの調整会議をしたという内容でございます。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） それに関しまして3番目になるんですけども、調整会議、2回終わって、投げかけてある。半分ぐらいは検討の対象になると。32施設あるうちの半分ぐらいは検討の対象になるよということですけども、その辺のタイムスケジュールはさっきおっしゃったような、投げかけてあるんででき次第でないかわかんないよ、なのか、ある程度タイムテーブルを区切ってお話ししていただいているのか、どうでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 6月に御質問があったときから、3月、29年度中には条例改正施行まで進みたいねというスケジュールは持っておりました。ただ、周知の期間とかございますので、先ほどの一般質問の御答弁の中でも使用料の改定はいつごろになるのかということがございました。条例は3月に上程いたしますが、施行については条例改正、使用料に

ついては少し周知期間が必要ですよということでお話をさせていただきました。

これについては3月には条例改正ができるように進めようというスケジュールは持って進めております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） そうしますと、32施設あるうちの、特に規定のないものについては完璧な見直しがされた。それから残りの約半数、規定のかかるものについては見直しをしつつ、条例改正をしていくよということで、済みません、いいんでしょうか。ちょっと確認をさせてください。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 数のほうは、先ほど申しました32というのは、個数とグループという意味での32ということが前提でございます。その中の約半数という話をしましたが、おおむね11の施設についてのうち、そのうちの5施設については法令で少し難しいねという方向が出ております。それは補助金返還ですとか、まだ償還期間を終わっていない。なので償還期間が終わったときにどうするかというのはその時点での見直しになろうかと思えます。

そういった法の中でなかなか緩和ができないねというのが5つぐらいございまして、6つぐらいの施設、この中に体育館等も入っているわけですけども、そこは広く一般の方が自由にとりいう部分は、いろいろな事業の関係とかいろいろございますので、学校施設等の体育館につきましては、そこはできないねというよりも、方向性をもって、いましばらく現状のままで行こうというものがございます。

そういったものが11ございますので、それ以外の施設について、利用制限が可能かどうかという検討をしているということの中で、おおむね枠としましては、数はなかなか難しいんですが、18施設のうち7つ、半分ぐらいが改正に向けて今調整を進めている。それが3月議会のときに何個という形になろうかと思えますが、それが整い次第に進めていくということで御理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。



○12番（豊田一仁） ではもう一つ重ねて、6月議会のときに、6月の質問のときに、精算方法とか申し込み方法のばらつきについてもお話しさせていただいていると思うんですけども、その統一化というようなことは、今の説明の中に含まれているんでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 詳細な部分につきましては、もう少し踏み込んだ調整が必要であろうと思いますが、まずは原則的には、申し込みという具体的な手続の前に、利用者の緩和というところからの着目と、使用料、財源の確保という着目の中での大きく2点の中からの取り組み。あとは、個別に所管課のほうでいろいろな不都合とかふぐあいについては整理をされている。そういった統合的な部分ももう一度検討・確認をしながら進めたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） わかりました。

6月の私の質問の中で、利用率、利用状況の把握はしてるのかという質問に対して、把握してごきますという答えをいただいて、いつでも開示できますからということだったんですけども、その辺のとりあえず現状での利用状況の、そちらが持ってらっしゃるデータの開示というのはいただけますでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 追って議会事務局を経由してお渡しするというところでよろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） はい。もちろん結構でございます。通告の中には私も入れてございましたので、今の回答で結構でございます。議長のほうでお許しいただければそうさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） よろしいです。

○12番（豊田一仁） では、よろしく申し上げます。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） ただいまのはちょっとかつに私がお話ししてしまったんですが、議会事務

局長とのやりとりではなくて、議会のほうからの申し出があってという、通常の手続に応じて書類をお渡しするという理解でよろしいでしょうかということでも申しましたが、よろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） はい。ルールにのっとって、私も対応させていただきますし、そちらも対応していただければ結構でございます。

では、次の質問に移らせていただきます。

豊田佐吉翁生誕150周年記念事業についての質問に移らせていただきます。

ことしの2月11日、アメニティプラザで本当に多くの皆さん方の御出席をいただいて開催されました豊田佐吉翁生誕150周年記念事業、本当に大きな盛り上がりを見せて、マスコミ等にも大きく取り上げられ、かなり湖西市を盛り上げることができたのではないかなと思いますし、その前から始まっておりましたいわゆる事業への冠づけ、継続的に行っていましたことも、とりあえず11月26日をもって終わったというふうに認識をしております。

ただ、本当に準備の過程から多くの皆さんの多大な協力をいただいて進めてきたこの事業でございます。ただここまで終わるといえるのは、まさにもったいない結果だなどと思ひまして、この事業成果を今後結びつけることができないだろうか、またそういったお考えはいかがかということで質問をさせていただきます。

まず現時点で、この事業をどのように評価してもらえるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 豊田佐吉翁生誕150周年記念事業としましては、記念式典、子どもバス見学会、織機の復元、佐吉の日めぐり・豊田佐吉ものがたり作成などの事業を実施してまいりました。

平成29年度になり、少年少女発明クラブの会員が20名ほど前年より増加したり、子どもバス見学会では募集後すぐに定員に達したり、さらには任意の市民グループが佐吉翁にちなんだ映画の上映をしたり、豊田佐吉記念館や産業技術記念館を訪問し、佐吉翁について勉強したりするなど、市民の機運・意識の

盛り上がりを感じております。

また、先月アメニティプラザで行われました特別展には、約5,900名という多くの方々に御来場をいただいております。佐吉の日めくり・豊田佐吉ものがたりの販売につきましては、現在も購入者が絶えない状況であることから、事業の成果は確実に出ていますと実感しております。

子供たちや市民の皆様を初めとする多くの方々に、こうした事業に触れていただいたことで、失敗を恐れず世のため人のために尽くしていこうとする、佐吉翁のチャレンジ精神を理解し、受け継いでいただく機会を提供できたと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） ありがとうございます。まさに大きな成果が得られたというふうに私も感じておりますし、やってよかった事業かと思えます。

これ、今恐らくそれは当局側の集計及びまとめだと思えますけれども、関係された方皆さん方を交えて、皆さんを交えるのは難しいかもしれませんが、なるべく多くの方に入っていただいて、こういった事業の全体総括を行うという予定はございますでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 2番目の質問のお答えになろうかと思えます。

先ほど答弁をさせていただいたように、150周年記念事業の総括としては、一定の成果を上げたものと考えておりました。後年度につながる道筋をつけたいと考えております。

記念事業によって得られたものは、成果・記録として保存し、後年のために活用していきたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） ここでちょっと確認をしたいと思えます。明確にするために、質問の番号をひとつお願いしたいと思えます。

では、続けてください。

○12番（豊田一仁） 失礼しました。今、質問、通告しました2番を終わらせていただいて、3番のほうに移らせていただきます。

今の御答弁の中で幾つかの事業があった中で、継

続とか継承とかをされていくような予定、イメージを持っておられるものはいかがかという質問をさせていただきます。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 好評いただいております。佐吉の日めくりや、豊田佐吉ものがたりは、継続して販売を続けていく予定でございます。

そのほか、復元した木製人力織機の常設展示やイベント等での機織り体験、子どもバス見学会を実施していくなど、今後につきましても、失敗を恐れず世のため人のために尽くしていこうとする佐吉翁のチャレンジ精神を受け継ぎ、後世に伝えていけるように努めてまいります。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） せっかく大勢の皆さんが知恵を絞ってつくっていただいた人力織機ですので、2台、トータル3台ですか、今現状2台あるのかな。ぜひ有効活用していただきたいんですけど、今おっしゃった展示というのは、何か具体的な場所をイメージされてのことでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 2台でございます。復元につきましては、1台につきましては、もう御存じかと思えますが、市役所ホールの佐吉翁のブースがでございます。その前に織機が1つ展示してございます。今展示してある織機につきましてはもう少し調整等が必要でございますので、それを実践する織機、機織り、そこまでは少しまだ届いてない分がありますが、展示という形では市役所ホールにしてございます。

もう1機の記念展で機織りの実践というんですか、機織りをさせていただいたものについては、ただいまは湖西中学校の資料館というんですか、そのほうに一時保管をさせていただいているという状況でございます。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 木製ですから、余りいじったり移動したりするというのは消耗につながってしまっているといんですけど、できればぜひ定期的な機織りの実演だとかいうようなことも含めて御検討

いただけたらなと思いますし、今お話のあった湖西中学校の資料館、あそこへ入れちゃうと死蔵になっちゃうんですよね。死んでおさめるという形の。ほとんどの方があその存在を認知しておられない状況なものですから、非常に残念なことなんですけどもね。あれだけのすばらしい展示品を用意してくださって、説明文もついて。ちょっと話飛ぶんですけども、今とりあえず保存してる状況の中で、思い切ってもっともつとあそこに人が入れる、ないしは子供たちが見学に行けるような状況というのは、難しいんでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） それではまず私のほうから、先ほどからの答弁の中で、後世に伝えていけるよう詰めてまいりますと申し上げました。これにつきましては、150周年の記念事業から取り組みについては企画部門でその事業を進めてまいりました。ここが一区切りつきます。それで、こういったいろいろな織機、佐吉の日めくりだったり本の活用につきましても、継続しながらも、さらにどういう形で、どこの部署がそれを持って、どう活用していくか。織機につきましても、いろいろそこにしまっ放しということであると、せっかくのものでありますし、せっかく使えるものは使えるという、そういったことも考えながら、今後その活用等もひっくるめまして、どこの部署で、こういった形でそれを発信できるかというのを調整をしながら、あそこにしまっ放しというのはなかなか残念な思いも私どももございますので、その活用方法につきましては、今後引き継ぎという言葉になってしまいますが、そういったことを踏まえまして、所管がどこですべきか、どこでどう活用していくか、その辺も道筋をつけながら、その取り扱いについては今進めているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 済みません。急な質問で申しわけなかったんですけども、あその施設は本当にもったいないというのが私の実感でございまして、こういった展示品とあわせて、もっともつと活用していただけたらなと思いますし、展示だけになりま

すとやはりせっかく復元した価値も半減してしまいますので、何かの折には定期的に稼働していただいて、子供たちに機を織るということはどういうことなのか、それから昔の人たちがいかに苦勞して織ってきたのかというようなこともやはり知ってもらう大事な経験になろうかと思えます。ぜひ、活用をお願いしたいと思えます。

では、最後の質問に入らせていただきます。

この事業の企画の段階で提言されております佐吉道場、これ、かなり膨大な構想で、すぐにとするのは難しいのかもしれませんが、とりあえず現状、市としてはどのように受けとめておられるのか。御説明いただきたいと思えます。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） 豊田佐吉翁生誕150周年記念事業を機に提出されました佐吉道場構想の提言につきましては、直接市の政策のもとになるものではございませんが、貴重な提言として今後の市の事業に生かしていくべきものと考えております。

現在、提言に関連する各部署ごとの事業の進捗等を把握するとともに、提言の内容を事業に取り込むことができないか意識してもらうよう、各セクションのほうへ指示しているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 現状としてはそういったところかなとは思いますが、あの提言書の中にある、提言された方々の思いというのは、すごい熱いものがありますし、また奥深いものがあると感じられるものなんですね。特に湖西市、ものづくり、ものづくりと言いながら、なかなかそれを象徴する場所、物、イベント、今何とか商工会さんがテクノフェアやったださってますけども、常設的な部分というのはないわけですね。やはりそういった部分からすると、市がやれとは私も言いません。市がやるべきことではないと思えます。ただ方向性を出して、いろんなところの力を集約するような流れだけはつくっていく必要があるんじゃないかなというふうに感じておるんですけど、それについてはいかがでしょう。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） 先ほども申しましたように、本当に貴重な提言でございまして、佐吉翁の業績、遺徳を伝えていくことは、本当に市の事業としても大変重要なことかと考えております。

ただ、なかなか拠点としての施設というのは、今のところ、公共施設再配置計画の中でも進めているところでございますので、その中でもどのようなことができるかというものを検討しながら進めていくべきかなというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 確かに公共事業再配置という建設予算の削減を目指した施策をとりながら、一方でものをつくれというのは、矛盾する話なのかもしれませんが、ただ、圧縮しよう、圧縮しようというだけでは、市民の気持ちもなえていってしまいます。必要なものをつくらなければいけないから、まず市民会館だ、まず市役所の確保だというのはわかりますけども、やはり将来に向けて期待の持てるような展開というのは、絶対必要ではないかなと思いますので、そういったところを踏まえて調整をお願いできればと思います。

これ、市長さんのほうにちょっとお聞きしたいんですが、佐吉道場に関しましては、28年の9月議会で同僚議員が当時の市長に質問しておられて、当時の市長は、もう任期も終了間近ということで、全て後任に託すという表現で終わっておられました。どんな形で託されたのか。それを現在どういうふうに持っておられるのか。ちょっとお聞かせいただければと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の御質問の中にもありましたとおり、この今回の生誕150年佐吉翁の事業ですね、私も就任前から本当に多くの皆様、そして熱意をもって進めさせていただきまして、佐吉道場の御提言も就任前から何度も拝見をさせていただいておりますし、今も市役所の中の各担当部局のほうで各御提言に対しての進捗を把握いただいているし、できるものから当然実施に移していただいているところであります。

自分自身が就任するときも、こういった佐吉道場

のお話も前市長からお話をいただいておりますし、それ以降もさまざまな記念事業等々、開催をさせていただきまして、今おっしゃるとおり、すぐにできるものは、例えば佐吉検定でありますとか、その他発明クラブ関連で、できるところから実施に移させていただいてるところですけれども、箱物も含めてなかなかすぐにじゃあここにつくりましょうというものでもないというのは、これは前回の御質疑の中にもあったと記憶しておりますので、今答弁にもあったとおり、公共施設の再配置ですとか、既存の施設でも職業訓練センターも今既にさまざまな形で御協力をいただいておりますし、そういったところの連携を深めていったりですとか、それは新たな公共施設の再配置の中でもそうですし、既存の施設の有効活用という意味でも、両面をにらみながら、できるものをしっかりと行っていく。そして新たに行えるものは、例えば財政事情ですとか、地域の皆さんの御協力ですとか、そういった体制が整ったものから中長期に考えつつも実施に移していくことが必要ではないかなというふうに思っておりますし、そういった皆様の熱意は、この150周年だけに終わらずに、後世に、そして将来世代につなげていきたいなというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 何か、1年前、28年の9月議会の答弁の後と同じような印象を持ってしまうのは、私の理解力のなさでしょうか。もう少し進展をというような願望が、強いです。特に今話題になってます市民会館の位置づけの中で、複合的な施設という表現がとられてます。こういったところにも、この発想を組み込んでいくというのも選択肢になろうかと思っておりますし、次の投資の有効活用の中でさまざまな部分で、ちょっと見方を広く持っていただけならなと思っております。以上で、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、12番 豊田一仁君の一般質問を終わります。

それではここで会議の途中ではございますが、少し早いようですけれども、お昼の休憩とさせていただきます。再開は午後1時といたします。

午前11時56分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（二橋益良） それでは、休憩を解いて午前に引き続き一般質問を行います。

続きまして5番 楠 浩幸君の発言を許します。  
それでは、5番 楠 浩幸君。

〔5番 楠 浩幸登壇〕

○5番（楠 浩幸） 5番 楠 浩幸でございます。昼一番、元気よく今回も一般質問させていただきたいと思っております。

先回の9月定例会におきまして確認をさせていただきました産業施策ですけれども、繰り返しになるかもしれませんが、産業界を取り巻く環境は、湖西市に非常に大きくかかわる自動車産業におきまして、100年に一度と言われる変革の中で、第4次産業革命と言われるAI、人工知能ですとか、IoTの進化によりまして、製造業におきましては単純な作業は既にロボット化をされていたり、少人化、少ない人数で仕事を行って質を高めていくということが、さらに進んでいくということだけではなくて、頭脳労働、いわゆるホワイトカラーの業態においても、どんどんと機械化が進むというふうに、実際にも既に進んでいる状況でございます。一方で、こういった人工知能AI化が新しい産業を誕生させるという可能性も期待をされているところでございます。

湖西市も窯業から繊維業、自動車産業へと変遷を経て、次世代へのものづくりのまち湖西を承継していくために、喫緊の課題として次世代を担う子供たちに対して社会に開かれた教育課程のもとで、人材育成におけるイノベーションが必要というふうに考えているところでございます。

本日の新聞でも、教育の質の向上が高められることが求められているような記事がございました。そんな中、平成29年3月に公示をされました新学習指導要領、こちらにも記載がございますけれども、地域と家庭との連携・協働による社会に開かれた教育課程を実現する体制づくり、そして次世代に求められている資質、そして能力の育成を拡充して加速させることが期待をされているところでございます。

そんな中で、今回この単元に社会に開かれた教育課程の実現について、2点ほど通告をしてございますので、まず1点目、この湖西市の社会に開かれた教育課程において、地域の人的・物的資源を活用するなどして、放課後や休校日を活用した社会教育との連携等に対する考え方、行政の考え方をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○議長（二橋益良） 教育長。登壇して願いたします。

〔教育長 渡辺宜宏登壇〕

○教育長（渡辺宜宏） 近年、コミュニティー・スクール推進の視点から、学校の教育課程そのものを放課後や休業日の活動にまで広げ、学校教育と社会教育の垣根を取り払うような意図をもった提案もございしますが、これにつきましては、子供の安全管理にかかわる責任体制だとか、あるいは保障体制等について、まだ十分な議論がなされておらず、拙速な導入は控えるべきだというふうに考えております。

社会に開かれた教育課程の推進につきましては、市内小・中学校におきましても、その重要性を十分に認識をし、既に地域人材の活用を中心に、積極的に推進しているところであります。

また、社会教育の分野では少年少女発明クラブや、あるいは放課後子ども教室、各種スポーツ少年団など、小学生を中心に放課後や休業日の子供たちの学びを支える仕組みも徐々に整ってまいりました。

このように、学校教育と社会教育がそれぞれの役割と持ち場を尊重し合いながら連携することが、子供たちの育成に大変有効であるというふうに考えております。今後は、地域・民間活力を活用した社会教育の受け皿、こんなものを拡大・多様化することで、社会に開かれた教育課程をさらに推し進めてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君、いかがですか。

○5番（楠 浩幸） 今、教育長の御答弁の中に、地域との協働というのはこれから進めていくんだけど、安全ですとか、保障体制にまだ課題を残すというような御答弁だったというふうに理解をします。

そんな中で、こういった安全保障体制について、いろいろ協議をする場が必要だと思わなければならない、具体的に学校運営協議会等々の設置についてはいかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 今、コミュニティー・スクールということで学校運営協議会という話が出てきているところでありますけれども、今現在、各学校には学校運営協議会に似たような学校評議員会というのがございます。

学校評議員会というのは、地域の代表の方々にも出ていただいていますし、自治会からの方々も出ていただいているというふうなことで、それらをもって今進めているところでありますけれども、さらにこれから拡大していくということであれば、そちらのほうも考えていきたいというふうに思っているところであります。以上です。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 今、学校評議員会というふうなお話があったんですけど、これはまた、学校マターでやられている評議会だと思わなければならない、湖西市内の小学校、中学校、11校ですか、全体を通してのこういった評議会のようなものは、まだないでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 今質問にあった市内全体で一つというのは今のところございません。それぞれ地域に根差した教育ということで、地域の子供は地域で育てるというふうなことで、まず身近なところから意見を伺って推進をしているところであります。以上であります。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 地域ごとで、学校マターで進めたいかというところで理解をいたしました。

2点目の質問に移りたいと思います。

2点目の質問でございますけれども、教育施設の地域拠点構想、先ほど神谷議員や豊田議員も質問があったと思わなければならない、これが1年前ですね、平成28年11月28日ですので、1年が経過をいたします。構想では教育施設を地域の拠点とするというふ

うにありますけれども、先ほど御答弁にあったように、セキュリティーですとか課題があるということなんですけれども、この課題をどのようにこれから解決して、いつからどのような、どの施設をどのように活用していくのか、もう少し具体的にお話しいただけると助かります。よろしくをお願いします。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 教育施設の拠点構想については、昨年、構想をまとめ、今年度、市民の方々へ説明や意見交換会を開催したところであります。

今後も平成30年3月に策定予定の公共施設再配置個別計画にのっとり、引き続きそれぞれのエリアで話し合いをもち、教育施設の複合化や活用など、具体的な内容について検討を進め、市民へ情報提供をしていきたいというふうに考えているところであります。

地域の活動拠点としても、エリアごと、複合化する施設ごとに、該当するエリアの市民と意見交換しながら、さまざまな課題に対応していく必要があるというふうに考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 市民との意見交換の中でということなんですけれども、この意見交換の場というのは、学校評議会というふうに理解をすればよろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 学校評議員会ということではなくて、先ほどもお話をしましたけれども、地域の方々の思い、そんな事柄も取り入れたいというふうに思いますので、それぞれの、今回はそれぞれの地域へ行って、それぞれの関係の方々が集まってくれというふうな形でしたけれども、これからはこちらから学校なり、幼稚園なり、小学校なり、入っていきながら意見交換をして、どんな課題があり、どんなことを要望されているのか。あるいは地域のほうへも足を運んで、地域としてはこんなことができればいい、そんな事柄を聞きながら考えていきたいというふうに思っているところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番(楠 浩幸) 進め方なんですけれども、定例的な委員会ですとか、そういう委員会を設置しないで教育委員会のほうから地域に足を運んで、都度、適宜意見を聴取する形というふうに考えればよろしいでしょうか。

○議長(二橋益良) 教育長。

○教育長(渡辺宜宏) それも一つですし、学校規模検討委員会というのも湖西市の中にはありますので、これから10年あるいは20年後、その期に近づいていったときに、どのような状態になってるのか。そんなことも考慮しながら話を進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長(二橋益良) 楠 浩幸君。

○5番(楠 浩幸) わかりました。また個別計画が出てくるまでの間、見守りたいと思います。以上で1つ目の質問を終わりたいと思います。

2点目です。2点目は、年代別の発明クラブの創設についてということでございます。

湖西市には、ものづくりを通して創造性豊かな子供たちの育成を目的としました少年少女発明クラブがございまして。ただ、対象が小学校3年生から6年生までということで、その前後が途切れているというのが実情でございます。

幼稚園から小学校、小学校から中学校、中学校から高校、大人の世代との連携と継続を行い、ものづくりの楽しさや学びの連続性を確保することが、これからのものづくりのまち湖西にとって非常に有益だというふうに思っております。

幼稚園時代、幼児期からシニアの世代まで、発達段階ですとか成長過程に合わせた体系的なキャリア教育の仕組みをつくり、ものづくりのまち湖西を次世代に承継していくことが必要であります。そんな中で2点ほど質問をさせていただきたいと思っております。

1点目は、就学前から中高年社会人まで、繰り返しになりますけれども、発達段階、成長過程に合わせた体系的なキャリア形成の羅針盤として、教育ロードマップをつくる必要があるというふうに考えるんですけれども、行政の考えを伺いたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○議長(二橋益良) 教育長。

○教育長(渡辺宜宏) 湖西市教育振興基本計画の基本理念にある「明日の湖西を創るひとづくり」のもと、幼児期から物に触れ、あるいはみずからが感じることができる体験が多いほど、他者への思いやり、あるいはやる気や自信、知識や技能を身につけることができますので、発達段階に応じたものづくりの体験の場を提供し、ものづくりの楽しさを感じ取ってもらっているところであります。

特に幼児期にはふたば学級や親子ふれあい講座、児童期には子ども講座や少年少女発明クラブ、成人期には生涯学習講座などでものづくりを体験する機会を提供しているところであります。

今後、新たに職業訓練センター等と連携しまして、小・中学生を対象にプログラミングの基礎や実践など、年間を通じて実施できるよう検討していきたいというふうに考えています。以上でございます。

○議長(二橋益良) 楠 浩幸君。

○5番(楠 浩幸) 訓練センターを活用して、そこを拠点にして小学生からシニアの世代まで共有した事業を展開を計画をしていきたいということで理解をいたしました。

それでは2点目に。2点目なんですけど、先ほど豊田議員のほうから佐吉道場の構想提言の進捗について質問がありましたけれども、私のほうからももう少し踏み込んで、この中に記載がございまして年代別の発明クラブの創設についてお伺いをしたいんですけれども、そのお考えを伺いたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○議長(二橋益良) 教育長。

○教育長(渡辺宜宏) 年代別の発明クラブを創設するためには、指導者の確保が非常に難しいところであり、現在直ちに全ての年代で創設することは困難であるというふうに思っております。

まずは中学生について、少年少女発明クラブから地元企業のお力をおかりしながら、プログラミングを中心とした発明クラブをつくっていききたいという申し出がありましたので、今後、発明クラブを拡大するために、教育委員会としては関係機関と連携し、地元企業などへ働きかけるなどして、指導者の確保に努めてまいりたいというふうに思っているところ

であります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 御答弁にあったように、単純に年代別の発明クラブを創設するに当たっても、やはり指導者の確保、人材の育成が必要だということなんですけれども、まずは構想を打ち立てて、そのためには人材を確保するためには民間の活力も必要だと思いますし、また発明クラブの卒業生なんかも取り入れたりですとか、勇退された企業の先輩方等々もお力をかりることも可能だというふうに思うんですけれども、こういった、教育委員会さんだけでそういったことを行われるのは非常に難しいと思うんですけれども、今先ほど訓練センターを活用してということなんですけれども、訓練センターの所管は市民経済部だというふうに承知をしておるんですけれども、そういった市民経済部さんと教育委員会との話し合いの場みたいなものはあったんですか。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） ただいまの御質問でございますが、既に昨年度、今年度も、職業訓練センターを会場に使いまして、28年度にはI Tのロボット塾であるとか、ことしにつきましては親子で参加のI Tキャンプみたいな事業を実際に既に実践しておるところもございます。教育委員会と御相談しまして、一緒にできるものがあれば積極的に参画していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 安心をしました。うまく教育の場、それから産業の場、うまく連携をしながら将来を育む子供たちの教育について考えていただきたいというふうに思います。

あわせて、先ほど1問目の質問で、ロードマップというふうな言い方をしたんですけれども、やはり各担当のレベルの幼児教育課ですとか、学校教育課ですとか、そういった各担当の皆さんのレベルの中では、各教育課程におけるキャリアの考え方というのはお持ちになっているのは承知をしているところなんです。ですので、それを我々市民に対しても、幼児期ではふたば学級ではどういうふうなものを育成して、将来のキャリア形成につながっていく

のかというのを、もう少し体系的にまとめていただいて、将来の、以前の市長の御答弁にあった将来の湖西のビジョン、その中に教育体系についても入っていたらいいなというふうに考えておりますので、そちらのあたりも少し御検討いただきたいというふうに思います。

3つ目の最後の質問に入りたいと思います。

最後の質問につきましては、先ほど来、教育長からも何度か御提案いただいているプログラミング教育についてということでございます。

新しい学習指導要領、幼稚園から小学校、中学校まで指導要領が出ておりまして、今年度は周知をする期間であると。実際には30年からスタートするというようなことが記載されているわけなんですけれども、そんな中で新しい学習指導要領の総則の中に、子供たちが将来どのような職業につくとしても、時代を超えて普遍的に求められるプログラミング的思考を育むことを目的として、小学校段階でプログラミング教育の必要性がうたわれているというふうに理解しております。

湖西市の近隣の自治体、浜松市さんですとか豊橋市さんでは、既にこの対応のワークショップが開かれていたり、実際にモデル校を選定して、既にトライが始まっているというような状況でございます。

2020年からこのプログラミング教育が小学校に導入をされる、科目に入るというふうには伺ってはいませんが、その考え方を導入するに当たって、次世代産業の湖西市の将来の担い手となる子供たちの学びの環境整備することが早急に整備されることが望まれております。

ここでも2点ほど質問をさせていただきたいと思っております。

1点目。1点目の質問は、プログラミング教育、これは2020年に開始に向けて、湖西市はどのように導入を図っていくというふうに考えているのか。実施に向けて、ハード・ソフト両側面から課題をどのように捉えておられるのかを伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 既に市内の中学校において



は、2、3年生の技術科の授業、こんな中でプログラミング学習を導入し、生徒の実態に合わせて10時から20時間、指導しております。

平成32年度からこの内容が小学校に広がるということで、プログラミング言語の確実な習得、あるいはより複雑な構文の習得や、ロボット制御などの実践的な学習、あるいはプログラミング的思考力の伸長が促進されるものと期待しております。

今後は、各校で平成31年度までに指導計画を立案し、指導教材を選定するよう指示してまいります。これと並行して、小学校にはプログラミングソフト、中学校にはより複雑な制御が可能となる簡易ロボットなどを整備していきたいと考えているところであります。

中学校における指導開始当初は、やはり振り返ってみましてもこうしたソフト・ハードの面の整備さえ整えば、教員の特殊なスキルを要することなく指導可能であるというふうに思われます。

必要に応じて県教育委員会主催の研修会への参加、あるいは技術科の教科等指導リーダーを活用した指導者講習会を開催する用意はございますが、指導面につきましても、そんなに大きな課題はないのかなというふうに考えておるところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 平成31年までに指導の計画と、そしてソフト、ロボット等々の整備を行うということなんですけれども、2020年からスタートするに当たって、若干のおくれのような気がするんですけれども、現状の整備状況等はどのように把握をされていますか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 現状の整備状況といいますと、各学校の、今のところコンピューターの関係ですけれども、これは6.8人に1台の割合で今設置されています。高速のインターネットについては全校で、無線LAN、各教室でも操作ができるということについては5カ年計画で進めておりますので、来年度、白須賀小・中をやると、全校、無線LANで使えるような状況にはなってきます。

ですので、ハード的にはある程度整ってきている。ただ、コンピューターの台数がまだまだ足りないので、今後、この無線LANだとかそういった事柄が充実してきた段階で、徐々にふやしていくというふうに考えているところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） インフラについては、各校ともワイファイの環境ですとか、パソコン教室等々あるんですけれども、ただ、学校の規模によりまして、やはり大規模校と小規模校ではやはりまだ格差が多いというようなことも聞いておりますし、実際に運用に当たって、学校間で少し格差がまだあるかなというふうに感じているわけなんですけれども、そういった具体的に申し上げるとタブレットの配置ですとか、そういったような計画も31年くらいまでにはある程度整備が見込まれるということによろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） タブレットの関係ですけれども、今、年間約100台ぐらい、それぞれの学校に配置をしております。100台といっても11校で割れば10台程度というふうなことで、なかなかうまく行かないんですが、徐々に徐々にということで、今充実をしているところでありますけれども、予算が許す限りそういった事柄について前向きにいきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 同じ湖西市内の学校で学ぶ子供たちが、やはりそういった環境でおくれたりですとか、格差が広がっていくということは、とても悲しいことですので、格差の是正等を進めていただきたいということと、あと、ただタブレットに関しましては、現場の声を聞きますと、タブレットがまだ十分でない学校についても、学校の先生の工夫によって授業に取り入れたりですとか、活用については先生マターで、教諭マターで御尽力いただいているということで、教員によるタブレットの活用状況についてはそんなに格差がないというふうに認識をしているんですけれども、やはりハードの整備につい

では早目に準備をしていただきたいなというふうに思います。改めてお伺いします。よろしく願います。いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 今後、来年の夏には新学習指導要領の説明会というのが、国から県へおりてきます。県の中でこんなことをという話も出てきます。しかも、そのプログラミング教育においても、文部科学省だとか総務省、そんなところでこんな授業に使えるのではないかと、そういった例というんですか、そんなものも来年度は出されるということでもありますので、そんなものも鑑みながら充足ができるような形で取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） そうですね。いろんな研修を受けられたりですとか、得意な先生、ちょっと苦手な先生というのはいらっしゃるかと思うんですけれども、やはり個人、先生方のスキルのベクトル合わせ、レベル合わせもあわせてお願いしたいなというふうに思います。

それでは結びにそろそろ入りたいんですけれども、今、教育長からもいろいろと御提案がありました。教育業界に捉われず、市民経済部も協働していただきながら、そして民間の活力も活用していただきながら、企業もやはりこれから、冒頭申し上げたように、産業構造がどんどんと変わっていく。そして人工知能ですとかそういったプログラミングの必要性というのは強く感じているところです。ですので、湖西市で学んだ子供たちがまた湖西に戻ってきて、就職をして、湖西のためにまた働いていただける環境づくりというのは、非常に大切だというふうに思っているんですね。この循環がやはり肝になってくると思うものですから、まずは手始めに、そういった関係部署の皆さんに集まっていただいて、教育研究会のようなものを立ち上げたらどうかなというふうに御提案申し上げるんですけども、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） プログラミングの教育拡大

の背景には、将来的なプログラマーの不足、これを懸念する産業界の要請があるというふうに聞いております。

これは、御質問の趣旨でございました次世代産業の担い手となる子供たちの育成という観点にも共通するものと思われまます。しかしながら、小・中学校で習得するプログラミング言語というのは、簡易過ぎて、子供たちが本格的なプログラマーを志す上では、動機づけにこそなれ、即実践に結びつくものではないというふうに思っているところであります。

小・中学校のプログラミング学習をさらに発展させて、C言語やあるいはマシン語など、より高度なプログラムを駆使する人材を育成するためには、例えば高度なプログラミング技術を有する人材を抱える企業に、CSR活動の一環として、より実践的なプログラミング講座を開いていただくなど、全く違うアプローチが必要かなというふうに思っているところであります。

民間活力を活用して、小・中学校のプログラミング学習をどのように発展させるべきかということについて、議論や研究をしていただくことは大変有意義なことだというふうに考えているところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 全く教育長言われるとおりでありますし、やはり餅屋は餅屋というところもございまして、プログラミングの本来の目的というのが、やはりC言語を覚えたりですとか、そういったプログラミングの本当にテクニカルなところだけではなくて、間違いをしたらどうして間違えたんだろうかというようなデバッグを修正していくというような考え方ですとか、それから体系的に物事を考えていく、ロジックで物事を考えていくというような考え方に通じるためのツールであるというふうにも伺っておりますので、みんながみんな九九を覚えるごとくC言語を覚える必要はないと思いますし、ただ、そういった機会があることによって、つぼにはまった子供たちが、さらに高度な技術を習得していくような場はやはり設けてほしいなというところは、やはり我々民間の側からすると、そういう機会を、動

機づけというのはまさにそのとおりだと思うんで、そういった場があるといいなというふうに思いますので、ぜひそういったいろんな部署を巻き込んだ研究会を立ち上げていただきたく、よろしく願いいたします。その点ではどうでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 学校の中ではいろいろ取り入れる場所というのはあると思います。例えば、出前講座ですね。あるいは達人録へ登録をしていただく。あるいは青少年科学の体験に出展をしていただくとか、あるいは中学校の部活動へ来ていただくとか、あるいは小学校のクラブ活動に入るだとか、いろいろなのがあると思うんですが、そんな人材登録、あるいは出前講座でこんなのができるよというのへ加盟していただければ、学校のほうとしてもお願いをしやすく、子供たちのためになるのではないかなというふうに思っています。そんなところでいろいろ地元の企業さん方々にも声をかけながら、そういったところへ人材登録していただきたいというふうに思っているところであります。ぜひ子供たちに力をおかしたいというところでもあります。以上です。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） そういった意味では、市民経済部長、役割が非常に大きいとは思いますが、また我々からも民間の企業さんですとか、生業にされてる事業者さんも、IT関係の事業者さんもいらっしゃるかと思いますので、一緒になって将来の湖西の、将来を担う子供たちのための人材育成について、また御一緒できればなというふうに思います。よろしく願いいたします。

以上をもちまして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、5番 楠 浩幸君の一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 続きまして3番 土屋和幸君の発言を許します。それでは3番 土屋和幸君。

〔3番 土屋和幸登壇〕

○3番（土屋和幸） 3番 土屋和幸です。よろし

くお願いいたします。

私のほうから2点お願いするものがあるんですけども、1点目は新居町駅から白須賀境宿に至るウォーキングコースにおけるトイレの整備ということで、実はこの3月議会でも一般質問させていただきました。その折、市長から前向きな回答をいただいておりますので御質問します。本来ですと、そのとき9月のときに質問させていただくということで御案内しましたですけども、12月になりました。

湖西市のイメージアップと地域住民の方々に対して、良好な環境を提供するために質問をさせていただきます。

まず1番目です。3月の定例会の折、ウォーキングに来られる方、地域の方々へアンケート調査をするという回答をいただいておりますが、その結果を教えていただきたいと思っております。また、そのアンケートについて、実施時期、対象人数などもあわせてお願いします。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。登壇してお願いします。

〔市民経済部長 長田尚史登壇〕

○市民経済部長（長田尚史） 平成29年5月のゴールデンウィークの期間中に、新居の関所から白須賀二川宿間を歩いている方を対象にアンケートを実施させていただきました。41名の方に御協力をいただきました。そのうち5人の方からトイレに関しての御意見をいただいたところでございます。

内訳につきましては、1時間に1カ所ぐらいあればよいという意見がお一人、また場所をわかりやすくしてほしいという意見がお一人、またトイレで困ったことがあるという御意見が3人ほどございました。そのうちの3人の方につきましては、おんやど白須賀にトイレがあつてよかったということで御意見をいただいております。ほかのお二人にも、ほかに何かございますかと何度も尋ねた中では、強いて言えばということでトイレがたくさんあればという様子でございました。

歩かれる方の視点では、現時点でトイレに困るという御意見は少ないものの、場所がわかりにくいという御指摘がありましたので、コース周辺のトイレ

の情報を丁寧に発信するよう努めてまいるとい  
ことでアンケートの結果を答えさせていただきます。  
以上です。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） ウオーキングに来た方につ  
てはわかりましたですけども、地元へのアンケート  
調査はやらなかったのでしょうか。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） 特には地元のほうへ  
はアンケートのほうは実施しておりません。以上で  
す。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） 地元からの苦情が結構あるの  
で、本来ですとウオーキングの方もそうなんですけ  
ども、地元の方へのそういう調査、そういう沿道の方  
の調査はして、そのつもりで言ったつもりだった  
んですけど、当時。地元の方には全くもってやって  
ないということで。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） アンケートにつつま  
しては特にやってごさいませんが、町内会の皆さん  
でありますとか、神社関係の方からは聞き取りの調  
査を行いました。

聞き取りを行った範囲内では、トイレがなくて困  
っているという意見は本当に全部が全部というわけ  
ではございませんが、そのときはございませんでし  
た。

また、ウオーキングされている方からトイレにつ  
いて尋ねられたことはということにも、そんなにな  
いよということでお答えは聞いております。以上で  
ございます。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） では、地元のほうからもそう  
いった意見はなかったというふうに理解すればよろ  
しいですね。そういうことで。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） 地元のほうからは特  
にそういう御意見がありませんでしたが、議員のほ  
うから御指摘も受けましたり、アンケートで受けま  
したようにトイレがわかりにくいという意見があっ

たということで、何とか方法を考えたいというふう  
に考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） わかりました。

では2番目として、今部長さんが言われたその結  
果について、市としては何かやっていくか、予定が  
あるかどうかだけ教えてください。

○議長（二橋益良） 市民経済部長。

○市民経済部長（長田尚史） トイレの場所がわか  
りにくいとの御意見がありましたことから、新町及  
び境宿に設置されている白須賀宿を紹介している観  
光看板に、トイレの施設の表示を見れるように表示  
をさせていただきました。また、ウオーキングコー  
ス沿いの施設の中で、トイレ利用ができないかどう  
か、関連する地元の方と協議させていただき、承諾  
がいただければ、今協議をさせていただいてますの  
で、承諾をいただければ看板等の設置を行って、御  
案内ができるように検討いたします。

また、白須賀宿を御紹介するリーフレットを更新  
したいと考えておりますので、見どころやトイレの  
位置など、ウオーキングを楽しまれる方に必要な情  
報をわかりやすく掲載するように、まずは対処して  
まいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） わかりました。ありがとうございます。

では2点目入ります。2番目ですけども、北朝鮮  
の弾道ミサイルへの対応と備えについてお伺いしま  
す。

日本を取り巻く国際情勢は日々変化しております。  
特に北朝鮮のミサイル問題は、我々日本人にとって  
隣国であるだけに、大変脅威であります。また、9  
月の防災訓練の折、市民の方から北朝鮮のミサイル  
が発射されたらどこへ逃げればいいのかという不安を  
吐露されました。

この北朝鮮の弾道ミサイル問題を、湖西市はどの  
ように考えているのか、お伺いします。

全国の自治体でもそういったことに対して訓練し  
ているところもありますし、二、三日前のテレビ報  
道ではハワイでもそういった観光客とかそういった

方に対してそういう警戒の訓練をしたように報道がありましたけども、そういったことから湖西市民のための安全確保について、市の考え方を確認するために質問させていただきます。

他の自治体では避難訓練を行うところがありますが、湖西市ではこのような脅威に対する市民の安全対策について、検討されているのかをお伺いします。

○議長（二橋益良） 危機管理監。

○危機管理監（青島一郎） お答えをいたします。

本市では、国からの緊急情報を瞬時に伝えるJアラートによりまして、緊急情報を受信した後、自動で直ちに同報無線を通じて特別なサイレン音を鳴らし、お知らせするシステムを整備しております。

弾道ミサイルは、発射からわずかな時間で到達する可能性があることから、避難行動は屋内避難となりますので、同報無線からは市民に対して、屋内避難を促す放送を行うこととしております。

御質問にありましたように、避難訓練につきましては本市では今考えてございません。以上でございます。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） わかりました。いわゆる弾道ミサイルのことについては、市のホームページでは例えば近くの物陰か地下に避難というのがあるんですけども、地下は湖西にはないので、そういった場合はもうしょうがないねという、死ぬしかないという。いわゆるミサイルというのは、ただ飛んできて爆発すればいいんでなくて、核兵器だということが前提にあると思うので、そういったものをホームページなんかでそういったところとか、市役所だよりとか、こういう体制に湖西市はあるよということが、市民の方、多分知らないと思うんですね。そういった面で、そういうことをやることによって、やたら不安をあおるという側面もあるんですけども、ただ、アメリカとか韓国とは日本は別の立つ位置にあるのかという考え方でやれば、それでいいのかもしれないんですけども、その辺のところはちょっと考え方を教えていただけたらありがたいと思います。

○議長（二橋益良） 危機管理監。

○危機管理監（青島一郎） 例えば地震とか自然災

害のように、地形ですとかその地域によっていろいろ特徴があると思いますけれども、このミサイル攻撃に関しましては、どちらかという、御承知のように、国、外交の問題でもございます。どこへ飛んでくるかもわからないという現実があります。

実際には、よく窓のないところ、壁に隠れてくださいとかということを広報しておりますけれども、ミサイルの着弾地点すら実はわからないというのが、このミサイル攻撃でございますので、今のところ市として、市のレベルで対応することは不可能ではないかなというふうに思っておりますので、議員が何か市は冷たいように思われるかもしれませんが、やれることはやってまいります。

この問題は、湖西市だけの問題ではございません。ですから、北朝鮮の、国名を出していいかどうかわかりませんが御質問のほうに載っておりますのであえて出しますが、動きがあれば、これはもう国を挙げての問題として、マスコミ、テレビ、新聞等でも非常に話題に、ニュースになります。ということで、そちらのほうで市民の皆さん、イコール国民の皆さんということになりますが、情報を得ただければというふうに思っております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 土屋和幸君。

○3番（土屋和幸） わかりました。私のほうは以上で終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、3番 土屋和幸君の一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 次に2番 菅沼 淳君の発言を許します。それでは2番 菅沼 淳君。

〔2番 菅沼 淳登壇〕

○2番（菅沼 淳） 2番 菅沼 淳でございます。それでは早速、主題、湖西病院の経営について、この1点につき質問をさせていただきます。よろしくをお願いします。

質問しようとする背景や経緯ですが、湖西病院は、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療のため重要な役割を果たしております。しかしながらここ10年来、毎年10億円前後の税金を繰り入れ、

経営状況の悪化や医師不足のために病院体制の維持が極めて厳しい状況にあると判断されます。多くの市民もそのような現状や病院の先行きを心配し注目をしております。

地方公営企業法には、経営の基本原則として、常に企業の経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されなければならないとあります。経営において、毎年多額の損失計上の状況にある中、果たして経済性を発揮した運営をされているのかどうか、民間経営の観点からお伺いいたします。

質問の目的は、健全経営の復活を目指していただきたいということで、それでは1点目の質問をさせていただきます。

公営企業は、民間同様、独立採算経営を求められるということですが、経営上の医業損失を毎年税金で助成をする理由をお伺いします。

○議長（二橋益良） 総務部長。登壇してお願いします。

〔総務部長 森 宣雄登壇〕

○総務部長（森 宣雄） お答えいたします。

湖西病院は、医師、看護師等の不足により、厳しい経営状況ではございますが、市といたしましては、サービスを維持し、市民の皆様が安心して病院にかかることができるように、また安定した経営を維持し、資金不足とならないようにするために、助成をしているものでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君、よろしいですか。

○2番（菅沼 淳） 私、基準の繰り出しについては、ただいまの説明で結構だと思うんですけども、私の伺いたいのは、基準外の営業助成、これなんですけど、独立採算経営を求められる企業でありながら、経営上の損失、資金不足を何で返済の必要のない税金で毎年助成するのかということをお伺いしたいんです。もう一度よろしいですか。

○議長（二橋益良） 総務部長。

○総務部長（森 宣雄） お答えをいたします。

答弁が重複してしまうかもしれませんが、湖西病院は公立病院としての地域医療の役割を持っております。そうした重要性を鑑み、医療サービスの

質の低下の防止や、経営に伴う資金不足等を一般会計から繰り出しを行っているというものでございまして、基準内、それから営業助成、そういったものも含めて繰り出しをしているということから、結果的にその財源が税金という形になってしまうということでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番（菅沼 淳） もう一度お伺いします。独立企業であっても、公営企業法には独立採算経営を求められると、しかも税収ではなく、経営上の収支で採算をとる方式と、こういうふうになってますけど、もう少し簡単に聞きましょうか。

何で経営上の赤字を、金融機関、これから借り入れをして、努力して返済をしないんですかということを知りたいんです。

○議長（二橋益良） 病院事務長。

○病院事務長（柴田佳秀） この件につきまして、私のほうから御答弁をさせていただきます。

病院が起債として借り入れできるものは、医療機器の購入でありますとか、建物の建設でありますとか、県の同意が得られたものについてに限られますので、営業助成的な起債はできないことになっております。一時的な資金不足に関しましては、一時借入金というところで予算の限度額に応じた借り入れをすることが認められておるものでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番（菅沼 淳） ただ、制度上、返さなくていいものをもらうしかない、ということですか、

○議長（二橋益良） 病院事務長。

○病院事務長（柴田佳秀） そういう意味で申し上げたのではなくて、やはり県のほうで同意ができるものは目的に応じたものを、今申し上げました医療機器とか建物の建設でありますとか、そういったものが事業上必要だということに関して借り入れが認められておまして、いわゆる営業助成でありますとか、借金の返済のための借金みたいなものというのは、認められていないという意味でございます。以上です。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番(菅沼 淳) 何か都合のいい制度になってますね。わかりました。2点目の質問に行きます。

1点目と関連しますけども、医業損失を毎年税金で助成することは、市民、納税者にも負担を求めることにとれますが、このことについて市長及び病院の見解をお伺いします。

○議長(二橋益良) 市長。

○市長(影山剛士) お答え申し上げます。

今、議員の御指摘にもあるとおり、毎年度、ここ最近毎年ですけれども、湖西病院への営業助成という形での繰り入れというものはやはり市民の皆様、納税者の皆様からの貴重な税金を投入、支出をして御負担をいただいているということは十分に認識をしているところであります。

今回、新たに12月から杉浦さんに病院事業管理者にも御就任いただきましたし、その豊富な御経験や御知見をおかりしながらですし、現在はまた全自病という経営診断を今外部に委託をして、客観的に今の湖西病院としての適正規模と申しますか、適正な機能、さらにはどういった機能があって、それをどういった体制でやっていくのが望ましいのかということ客観的に外部から分析をいただいているところでありますので、そういったことも含めてしっかりと分析した上で、新たな病院経営者のもとで経営の改善を図っていただきたいと。当然早期に図っていただきたいというふうに認識をしているところであります。以上です。

○議長(二橋益良) それでは、病院事業管理者。

○病院事業管理者(杉浦良樹) 湖西病院を利用されている方は、入院・外来とも湖西市民が9割以上を占めています。湖西病院は地域医療を支える公立病院という役割も一方で担っております。

これから、既に高齢化が進んでいますが、さらに進む高齢化の中で、湖西病院の役割は今以上に重要になっていくというふうには考えております。

市からの繰入金につきましても、市民の皆様にとって必要な診療体制、健診事業、休日・夜間の救急業務などのサービスを維持していくためには必要なものだというふうには思っております。以上です。

○議長(二橋益良) 菅沼 淳君。

○2番(菅沼 淳) 病院の御答弁の収支の基準繰り入れ、これは必要だと思いますよ。その上でもう一回質問したいんですけど、基準の繰り入れをしても計上される損失、毎年税金で穴埋めをしているということは、これ見方を変えれば、基準外の営業助成も市民の責任という、そういう解釈にもなると思うんですけど、それでよろしいですか。

○議長(二橋益良) 病院事業管理者。

○病院事業管理者(杉浦良樹) 市民には責任はございません。繰入金をいただいていることは病院を運営していく上で市民からの御負担をお願いしているということは事実だというふうに思います。以上です。

○議長(二橋益良) 菅沼 淳君。

○2番(菅沼 淳) 税金ですからね。市民の責任じゃないですか、毎年毎年の赤字を税金で助成するということは。だからさっきの質問なんですけど、何で借りないんですかと、金融機関から。そういうことになるんです。わかりました。では3点目の質問に。

充実した医療体制による増収・増益を図ることは当然だと思いますが、実現できていない状況です。目前の赤字対策については、これまで以上の厳しい経費削減が必要と考えますが、どのような取り組みを考えておられるのか、お伺いします。

○議長(二橋益良) 病院事業管理者。

○病院事業管理者(杉浦良樹) 経費削減につきましては、これまでもバランススコアカードなどに取り組んで努力しているというふうに聞いております。

先ほども答弁いたしましたとおり、まず私が湖西病院の詳細な実態を把握して、本年度に行われる経営診断の結果も参考にさせていただき、やらなければならないことを導き出していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長(二橋益良) 菅沼 淳君。

○2番(菅沼 淳) ぜひそうしていただきたいと思います。私なんか決算資料見ても、必要のないもの、それから削減すべきものが多々あると感じております。

そこで再質問ですが、毎年、多額の医業損失計上

の状況において、改革プランを見ても、経費削減対策のうち固定費の大きな割合を占める人件費、特に給与は削減の対象になっておりません。理由を教えてください。

○議長（二橋益良） 病院事務長。

○病院事務長（柴田佳秀） お答えをいたします。

改革プランにおきましては、医師・看護師等を増員して、東病棟を再開して、経営改善をしていこうという計画になっておりますことから、給与費等の削減とはなっていないものでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番（菅沼 淳） 答弁になってないじゃないですか。何で給与の削減をしないのかと聞いてるんです。もう一度お願いします。

○議長（二橋益良） 病院事務長。

○病院事務長（柴田佳秀） 給与等を削減していきますと、人件費の、採用の費用も賄えないということにつながってまいりますので。多分議員がおっしゃりたいことは、通常の業務の中で人件費を削減という趣旨の御発言ということでありまして、私どもも必要最小限の人件費で賄っておるというふうに思っております。先ほど言いましたように、医師、それから看護師等におきましては、増員の必要性があるということで、予算上、それから改革プラン上では、予算を確保させていただいておりますが、決算におきましては採用できなかった部分等ありましたときには、不用額として減額をしておるところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番（菅沼 淳） こういう状況においても、給与は決して高くないと、こういう考えですよ。

ではもう一個聞きますが、病院全職員の皆さんは、この厳しい経営状況を把握・共有されておるんですか。

○議長（二橋益良） 病院事務長。

○病院事務長（柴田佳秀） お答えをいたします。

毎月月末に各部課長を集めまして、管理会議というものを開催しております。そこでは、経営の状況等を示して説明をしております。そのところで厳し

い状況ということももちろん示してお知らせをしておりますし、いろんな部署で経費の削減や収入増にかかるものをお願いをしております。その資料を持ち帰り、職場へ供覧することによりまして、全病院職員に周知されているということでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番（菅沼 淳） こういう状況で、本当に職員にそういうことを言っておるといんですけども、私が見たら、本当に危機感持ってるのかと、本当に疑ってしまいますよ。

それでは最後の質問。予算編成は一般会計からの繰り入れ依存を見直し、収益に見合う内容にすべきと考えますが、今後の予算編成方針をお伺いします。

○議長（二橋益良） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（杉浦良樹） お答えいたします。

予算における医業収益につきましては、常勤医の先生方からヒアリングを行って、次年度の収入見込みを算定していると聞いております。費用につきましても、要望のある各所属とヒアリングを実施して、経費等の必要性を確認しております。

できるだけ繰入金に頼らない予算編成が必要だと考えておりますが、まずは現状の経営状況等の把握と本年度に行われている経営診断の結果を参考にさせていただいて、経営改善に取り組んでまいりたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 菅沼 淳君。

○2番（菅沼 淳） ありがとうございます。

私は、このような状況において、病院の健全経営の復活を目指すには、経営経費の大半を占める人件費にメスを入れることが重要なポイントになると思っております。いずれにしても地域医療の重要な役割を果たす大切な病院ではありますが、一方で毎年多額の税金を繰り出すことで、市民へのさまざまなサービスが圧迫されていることも事実です。そのような事実を重く受けとめ、改善の努力が見えるような予算編成を期待するとともに、民間企業の経営経験者である杉浦管理者の手腕に期待をしたいということで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、2番 菅沼 淳君の



一般質問を終わります。

これもちまして、本日予定しておりました一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

午後 2 時10分 散会

---